曲

中井　猛

地唄の古い曲に「香尽し」というのがあって、はじめに〽６１種の名香は」と唄い出しますとあとは終りまでお香の銘といゝますが、名前ばかりを美事に羅列してあるのです。実際に６１種類を全部挙げております。〽６１種の名香は、法隆寺・東大寺・逍遙・三吉野・紅塵・枯木・中川・法華経・花橘・八橋…………」といった具合なのです。

竹桜会から原稿を依頼されて、いよいよ明日が締切となりました。徹夜であれこれと考えたのですが、どうも文章がまとまりません。明け方になって、思案のあげ句に思い付いたのがこの「香尽し」の手で、自分がいま迄に習得した曲を、全部書き出してみようと思うのです。少くとも昭和５４年現在には、これだけの曲が伝承されていた、という地唄保存状態の記録にはなると思います。

３曲に志のある方、この中で名前を聞いたことがある曲、習ったことがある曲がいくつあるでしょうか、暇にまかせて数えてみて下さい。３０曲以下は初歩級・百曲前後は師匠級・２００以上は地唄の通人です。

もちろんこゝでは曲名だけを並べているのですが、曲によっては「狐会」のように、京流の三絃の本手替手と箏の本手替手で４種、大阪流と九州流は別の三絃の手があり、箏の手付も宮城・富崎の２種あり、全部併せるとひとくちに「狐会」といっても都合７種類のものがあることになり、有名な「六段」でも、平・雲井・中空と箏に３種、３絃も本調子と三下りの２種、合計５種の「六段」があります。地唄曲といゝましても三分の二種は箏の手が付けられておりますし、他に３絃同志の替手や地がありますので、実質的な楽譜の量からみますと、ほとんど曲名の２倍近くに相当することになります。

葵の上・青葉・新青柳・朝戸出・芦刈・吾妻獅子・梓・海士・綾衣・有馬獅子・顕草・荒れ鼠・意見曽我・磯千鳥・磯の春・妹背の秋草・今小町・妹背川・芋頭・浮舟・薄雪・新浮船・浮舟話・宇治めぐり・善知鳥・梅ケ枝・打盤・靭猿・梅の月・梅の宿・海老・越後獅子・江戸土産・縁の綱・老松・老の友・老の双葉・翁・扇尽し・桶取・帯屋・おぼこ菊・おふさ・お乳やめのと・落し文・新落し文・女手前・笑顔・神楽・神楽初・かほ花・かくれんぼ・影法師・楫枕・かずき面・金の成る木・鉄輪・桂男・門松・鎌倉八景・からくり的・通う神・雷・紙治・髪梳き・蛙・川千鳥・寛活一休・邯鄲・尾上の松・きゞす・海人小舟・菊・菊の露・菊の朝・狐火・金五郎・きれ尽し・曲鼠・京名所・木遣・貴船・きぬぎぬ・狐の嫁入・面影・楠の露・口切・雲井弄斉